

## 平成 30 年度第 3 回桑名市入札監視委員会会議録

日 時 平成 31 年 2 月 7 日 (木) 午前 10 時 00 分～11 時 30 分

場 所 市役所 3 階 第 2 会議室

出席者 桑名市入札監視委員会委員 (5 名)

東川 薫 (委員長)

伊藤由美子 (副委員長)

赤木 邦男

佐藤 久善

藤田 素弘

事務局 (6 名)

早川 晴美 (契約監理課 課長)

種村 悟 (〃 課長補佐兼検査指導係長)

蒔田 宏之 (〃 課長補佐兼契約調達係長)

石川 友紀 (〃 契約調達係)

森 浩木 (上下水道部 次長兼企画総務課 課長)

小林 修 (〃 課長補佐兼総務係長)

工事担当課 (6 名)

眞柄 光作 (財政課 公共施設マネジメント係長)

田中 健悟 (財政課 公共施設マネジメント係)

佐藤 良治 (土木課 課長)

橋本 優香 (土木課 建設係主査)

栗原 繁憲 (上下水道部 工務課 課長)

西田 勝彦 (〃 主幹)

### 事 項

#### 1 開 会

##### 【事務局】

平成 30 年度第 3 回入札監視委員会を開催させていただきます。

本日は、総務部長が議会のため欠席でございますので、代わって上下水道部次長の森から御挨拶申し上げます。

##### 【事務局】

失礼します。おはようございます。上下水道部の森と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、第 3 回の桑名市入札監視委員会ということで、委員の皆様には、御多用のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、平素皆様には桑名市の市政各般にわたりまして、ご理解とご協力をいただいておりますことを、合わせてお礼を申し上げます。

去る先回のこの委員会の場で、総務部長のほうから市議会議員の選挙の御案内をさせていただいたところでございますが、先般の市議会議員の選挙におきまして、26 議席中、11 名の方が新しく改選されたということで、新しい体制になって、少し前に議会も終了したとこ

ろでございます。

我々地方公共団体といたしましては、議会の体制が変わりましたとしても、やることは公平・公正な行政運営を行うということに変わりはありません。引き続きまして、皆様の御指摘、御指導などをいただきながら、入札及び契約の透明性を高め、公正な競争性を確保していきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

本日は、よろしくお願いいたします。

**【事務局】**

ありがとうございます。本日の議事につきましては、お手元の事項書に基づき進めさせていただきますので、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

なお、本委員会は、入札監視委員会条例第5条第2項の規定を満たし、有効に成立していますことを御報告申し上げます。

それでは、開会に先立ちまして、東川委員長から御挨拶を頂戴したいと存じますので、よろしくお願いいたします。

**【委員長】**

おはようございます。皆さん、お忙しいところをありがとうございます。

私も委員になって10年以上になるのかなと思いますが、そのころはデフレの時代だったのですが、今や人手不足で、入札が不調になることもある次第でございますが、さきほど挨拶していただいて、公平な入札契約をやっていくという目的は一緒ですが、時代や状況がどんどん変わってきます。逆に言うと、それに合わせて適切な方法を常に改善をしていくということが必要だと思っています。

本日も皆様の御協力で進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**【事務局】**

ありがとうございます。ここからは、桑名市入札監視委員会条例第5条第1項の規定に基づきまして、東川委員長に議事進行をしていただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

**【委員長】**

それでは、事項書に従って議事を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議は一般公開となっておりますが、現在は傍聴を希望される方はおみえになっておりません。また、途中で傍聴される方がおみえになる可能性もありますので、その時点で傍聴の可否についてお諮りさせていただきたいと思います。

## 2 議 事

### (1) 入札及び契約手続きの運用状況について

**【委員長】**

それでは、早速、審議に入ります。議事の「1 入札及び契約手続きの運用状況」につきまして、事務局から説明をお願いします。

**【事務局】**

誠に申し訳ございませんが、最初に配付させていただいた資料の2箇所の入力誤りがありますので、訂正をお願いいたします。

まず、1カ所目が資料の15ページの入札経過表の上から7行目の契約金額(税込)とありますのを、契約金額が「税抜」に、2カ所目は29ページの同じく入札経過表で、15ページ同様に「税込」を「税抜」に訂正をお願いいたします。申し訳ございませんでした。

それでは、(1) 入札及び契約手続きの運用状況について、説明させていただきます。資料の1ページをご覧ください。①指名停止の状況でございますが、今回の審議対象期間であ

ります平成 30 年 9 月から 12 月の 4 カ月の間に指名停止を講じた件数は 1 件となっております。

三重県が実施いたしました指名停止に合わせまして、桑名市でも同等の措置を講じたものでございます。

次に②の談合情報でございますが、対象期間において寄せられた情報はございませんでした。

説明は、以上でございます。

【委員長】

ただいまの御説明につきまして、御質問、御意見等はございませんでしょうか。

それでは、ただいまの説明につきましては以上とさせていただきますと思います。

## (2) 抽出事案の審議について

【委員長】

それでは、続きまして、議事の「(2) 提出事案の審議について」の項目に移ります。審議に先立ちまして、抽出案件 5 件について説明を得るため、入札監視委員会条例第 6 条の規定に基づき、関係者の出席を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔全委員が了承する〕

それでは、関係者の出席を求めます。

〔関係職員の入室〕

【委員長】

それでは審議に当たりまして、今回の 5 件の抽出事案につきまして、赤木委員から説明をお願いいたします。

【委員】

まず、1 件目の契約番号 10031 番の「西森忠市営住宅 3 号棟他改修工事」ですが、理由としましては、3,500 万円以上の案件で比較的高額であることと、わりかし高額の割にきれいに同額入札になる点で抽出させていただきました。

次の「多度町香取地内水路修繕工事」の件につきましては、応札者が少ないことと落札率が高かったことです。

次の「五反田配水管布設替工事」であります。これは、全員が同額入札で、しかも金額が高いという点で抽出させていただきました。

次、「西桑名幹線雨水管路の施設工事（駅西地区）」ですが、こちらも同額入札ばかりということで、ほぼというか、最終的に同額入札の人たちが落ちて、1 件だけ一番安い金額で落札しています。あとは、金額が大きい点です。

最後です。「配水管布設設計業務委託（大山田一丁目地区ほか）」の件ですが、これは全員がきれいに同額入札ということでしたので、抽出させていただきました。あと、人数も多かったということです。

以上でございます。

## 抽出事案 1 西森忠市営住宅 3 号棟他改修工事

【委員長】

それでは、第 1 案件です。「西森忠市営住宅 3 号棟他改修工事」につきまして、発注担当課のほうから工事概要について説明していただき、その後に事務局から発注公告の内容と入札経過についての説明をお願いします。

**【担当課】**

それでは、工事概要について御説明申し上げます。お手元の工事概要書を御覧ください。工事名は、「西森忠市営住宅3号棟他改修工事」でございます。

予算額は51,823,000円でございます。設計額は、42,036,840円でございます。工期は、平成30年10月2日から平成31年2月28日まででございます。

続きまして、工事概要につきましては、建物概要としまして、建物階数：鉄筋コンクリート造4階建て、建設年度：平成2年度となっております。

用途は、共同住宅24戸でございます。

改修内容としまして、バルコニー防水改修工事（階段室屋根を含む）。続いて、外壁及び階段室の補修・塗替工事、避難ハッチ及び堅樋取替工事、外部側壁塗替工事、附属棟（自転車置場、物置）補修・塗替工事、受水槽新設工事、1号棟給水直結切替工事、既設受水槽撤去工事でございます。

以上が工事概要となります。

**【事務局】**

続きまして、発注公告及び入札経過について説明させていただきます。資料の5ページを御覧ください。入札方法は事後審査型条件付一般競争入札です。

資料の中段を御覧ください。入札参加資格要件につきましては、建設工事業の許可業者であること。所在地条件は市内までとし、経審点数は550点以上、発注業種の完成工事高は、予定価格の2分の1以上であること。同種工事施工実績は、平成15年度以降、官公庁が発注した案件で建築一式工事の施工実績を有すること。技術者要件としまして、現場代理人及び主任技術者の配置を求め、以上の要件により公告いたしました。

次に、入札の経過及び結果でございますが、6ページを御覧ください。平成30年9月19日に入札を行いましたところ、7者から応札があり、開札の結果、7者全てが最低制限価格以上、予定価格以内の応札で、そのうちの6者が同額のため、くじにより株式会社伊藤工務店を落札候補者といたしました。

その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き3,503万円で契約を締結いたしました。

説明は、以上でございます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

**【委員長】**

ありがとうございます。それでは、ただいまの御説明につきまして、御質問、御意見等ございましたらお願いします。

**【委員】**

抽出理由そのものですが、いろいろ私も長年、ここでお世話になっているところですが、わりかしシンプルな、例えばですが、敷設工事とか下水管入れる、上水管入れるとか、わりかし延長が何メートルとかシンプルなのがあって、そういうときは、積算をしてきれいに同じ金額になってしまうという話をよく聞かせていただいているのですが、今回の工事内容を見ると、わりと色々な工事をして金額も高額な中で、きれいに並ぶというのは、何か理由があるのかなという質問でございます。

**【事務局】**

事務局の蒔田です。今回の案件につきまして、最低制限価格の計算をした結果、上限を超えましたので、最低制限基準価格は予定価格の9割となり、業者はそれを勘案して応札してきたものと思われます。

**【委員】**

要するに業者側もギリギリでというか、そこを見抜いて応札しているという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

そのとおりです。あと、最低制限価格以下になると失格になることを業者さんも知っていますので、それでこのような結果になったと思われます。

【委員長】

ほかにはいかがですか。

【委員】

毎回このような話が出ているわけですが、そもそも積算ソフトというのは、種類はどの程度あるのでしょうか。一種類しかなくて、例えば、同じ係数を入れたら同じ答えしか出ないようなものなのか。あと、その積算ソフトというのは、そもそもいくらぐらいするようものなのか、質問させていただきます。

【担当課】

今のご質問は、積算ソフトというのは、工事の積算についてでしょうか。私ども財政課が発注しています工事、庁内の建築工事に関するものにつきましては、建築工事に関しては、積算ソフトを使っておりません。一つひとつ材料と手間の工賃で金額を弾いて、その積み上げで積算をしておりますので、積算ソフトというのはございません。そういうご回答でよろしいでしょうか。

【委員】

そうすると、今までもよく同じ金額が並ぶのでしょうかという質問をさせていただいたときに、いわゆる計算方式がそもそも公開されているようなところがあり、業者さんが自社の積算ソフトなどを使って計算すると、同じ答えが出がちであるというようなご回答を頂戴したような気がするのでお尋ねしたようなことですが。

【事務局】

土木工事等では積算ソフトを使って積算をするというように理解しております。一緒になってしまうのは、予定価格を事前公表し、最低制限価格の算出式も公表しておりますので、それをもとに業者さんのほうで計算されると同額の応札が多くなってしまうと思われます。

【委員長】

この案件につきましては、特に問題がないという気がしますが、以前から業者が使っているソフトについては、直接の仕事の範囲内ではないのかもしれませんが、適切な入札を実現していく中では、相手側の状況を知ることとは、非常に重要なので、以前も一回、話をしたことがありましたが、そこの事情を少し具体的にわかるような説明を今後でもできるとありがたいと思います。

特にこの案件につきましては、問題はなしということにしたいと思います。

## 抽出事案 2 多度町香取地内水路修繕工事

【委員長】

それでは、次の第2案件です。「多度町香取地内水路修繕工事」について、発注担当課から工事概要の説明をしていただいて、その後、事務局から入札についての説明をお願いします。

【担当課】

工事概要といたしまして、工事名：多度町香取地内水路修繕工事でございます。次のページの地図をご覧ください。施工箇所につきましては、多度町香取地内、県道多度長島線の南側に並行します排水路でございます。再度、工事概要をご覧ください。予算額：1,885,440 円に対しまして、設計額につきましては、同額でございます。工期は、平成30年10月16日から同年12月19日まで。工事概要につきましては、土工：一式、柵渠工：23メートル、コ

ンクリート削孔：10 孔、排水管接続：8 メートル、張コンクリート工：4 立米、あと水替工：一式でございます。

工事概要につきましては、以上でございます。

**【事務局】**

続きまして、発注公告及び入札経過について説明させていただきます。資料の 10 ページをご覧ください。入札方法は、事後審査型条件付一般競争入札です。

資料の中段をご覧ください。入札参加資格要件につきましては、土木工事業の許可業者であること。所在地要件は市内までとし、経審点数は 649 点以下、発注業者の完成工事高は、予定価格の 2 分の 1 以上であること。同種工事施工実績は、経審点数が 649 点以下で、完成工事高要件を満たさない業者、又は経審点数 650 点以上で、完成工事高要件により 250 万円以上の工事に参加できない業者の場合のみ、平成 15 年度以降、官公庁が発注した案件で土木一式工事の施工実績を有する者。技術者要件として、現場代理人及び主任技術者の配置を求め、以上の要件により公告いたしました。

次に、入札経過及び結果でございますが、11 ページをご覧ください。平成 30 年 10 月 3 日に入札を行いましたところ、1 者から応札があり、開札の結果、その 1 者である株式会社サコスが最低制限価格以上、予定価格以内で応札したため、落札候補者といたしました。

その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き 1,718,000 円で契約を締結いたしました。

説明は、以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

**【委員長】**

それでは、ただいまの説明につきまして、ご質問のある方はお願いします。

**【委員】**

まさにこれは抽出議案そのものでございますが、たった一者しかなくて、しかも予定価格でドンピシャということですが、予定価格を事前公表しているため、100%で落札することも可能ではあると思われますが、一者というのは、何か気になるところでありますので、このあたり、何か考えられる理由というのはございましょうか、お願いします。

**【担当課】**

まず、発注担当課の推測でございますが、当該施工箇所については、もともと素掘り側溝の箇所について、コンクリートプレハブの水路を施工すると。かなり施工につきましては、条件的に施工箇所、狭歪な部分もございますので、業種的に工事としては難工事、俗に言う人気のない工事というところかと感じております。

**【事務局】**

それに加えまして、水路工事とか舗装工事というものは、よくこういうパターンが見受けられまして、先ほども担当課長から申し上げたとおり、難工事ということもありまして、予定価格いっぱいであれば、この工事もできるという感じで応札してきたものと思われます。

一応、調べたところ、入札参加可能業者数は 30 者程度見込まれていましたので、結果、やはり難工事ということが業者さんもわかっていて、予定価格いっぱいの応札になったかと思われます。

**【委員】**

それと、確認というか理解としては、難工事であることと、金額もそんなに高くないという点で、業者さんもそんなに儲けもないところからいえば、予定価格いっぱいに入れて、自分が一者ならそれはそれでよしでしょうし、仮に他の業者が入ってきて落札できなくても、それでよしと。要は、頑張って最低制限価格に近づけてまで取りたくはないと、そういう理解でよろしいでしょうか。

**【事務局】**

はい、そのとおりです。

【委員】

すると、場合によっては誰も応札者がいないという可能性もあったということですかね。

【事務局】

はい、そのとおりでございます。

【委員】

今、赤井委員がおっしゃったとおりなんですけど、これは難工事になるということで、予算額は180万円ぐらいありますが、予定価格を決める段階で難工事だから少し値段を高く設定しておいたら、もっとたくさんの方が応札してくれて、結果的に安くなったということは考えられませんか。

【担当課】

以前も当委員会において、ほかの案件でも同じようなお話をいただきましたが、県が基準としています設計の基準を用いまして、各経費を計上し設計を変えられないということで、この設計金額ということになってしまいました。ですので、難工事であっても、設計基準上、組める部分については、組んではございますが、それ以上の金額となりますと、幾分かの理由が立たないということがありますので、こういった結果になってしまわざるを得ないかなと思うところです。

【委員】

基本的なところをお聞きしますが、公表するのは予定価格でしたか。先ほど建築工事は予定価格を公表しているという話がありました。

【事務局】

公表しているものは予定価格と、最低制限価格の算出式ですね、こちらを公表しております。

【委員】

今までもそうでしたかね、積算ソフトでやると大体のところがわかるから、そこで業者が最低を狙ってくるとかいう話がいろいろありましたが、予定価格は公表しないという話もあったような気がします。

【事務局】

予定価格は事前公表しています。それと金抜設計書も公開しておりますので、それをもとに最低制限価格を計算して、応札してくるのかなと思います。

例えば、県や他市町では、工事に応じて予定価格の事後公表を試行的にやっている部分もありますが、そういう場合ですと、同額入札は少なくなるかと思われます。

ただ、まだうちのほうもいろいろ事件がございましたし、今、予定価格の漏えいという問題とかもたくさん出ていますので、今はこのまま予定価格事前公表という形で進めさせていただきます。

【委員長】

他はいかがでしょうか。それでは、この案件につきましては、特に問題なしとしますが、継続的に出てくる話ですが、むしろ入札が不調に終わったり、業者の数が少ないということが結構出てきているので、それへの何らかの対応というのも、今すぐどうこうという話ではないですが、考えていただきたいと思います。

### 抽出案件 3 五反田配水管布設替工事

【委員長】

では、次の第3案件です。「五反田配水管布設替工事」について、発注担当課から工事概要

の説明していただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についての説明をお願いします。

**【担当課】**

工事の概要を御説明させていただきます。座って御説明させていただきます。お手元の資料の 12 ページをご覧ください。工事名は、五反田配水管布設替工事。工事場所は、桑名市五反田地内ほか。設計金額は、46,537,200 円。工事期間は平成 30 年 10 月 22 日から平成 31 年 3 月 15 日までとなっております。

本工事は、昭和 46 年に布設されました、47 年経過した水道管において、近年、漏水による修繕が多発しておりましたことから、更新を行う工事となります。

施工内容は配水管布設替工といたしまして、口径 100 ミリから 50 ミリの耐震性を有する配水用ポリエチレン管 817.6 メートルと、地下式消火栓 2 基を開削工法により入れ替える工事となります。

以上となります。よろしくお願いいたします。

**【事務局】**

続いて、事務局から発注工期と入札経過について御説明をいたします。資料 14 ページを御覧ください。入札は事後審査型条件付き一般競争入札で執行いたしました。入札参加の資格要件につきましては、土木工事業の許可業者であること。所在地要件は市内業者としまして、経審点数が 650 点以上、発注業種の完工高が予定価格の 2 分の 1 以上であること。同種工事施工実績として、平成 15 年以降、官公庁が発注した案件で土木一式工事の施工実績を有することを求めています。

技術者要件としまして、現場代理人と主任技術者、その他技術者として、配水用ポリエチレンパイプシステム協会正会員メーカーの配管技能（施工）講習会修了証取得者等①・②・③のいずれかの配置を求めまして、その他要件として桑名市の指定給水装置工事業業者であることを求めています。以上の要件をもって公告をいたしました。

続いて、入札経過及び結果について御説明をいたします。資料は 15 ページです。平成 30 年 10 月 9 日に入札を行いましたところ、6 者から応札がありまして、開札の結果、そのうち 5 者が最低制限価格と同額での応札となりました。その結果、電子くじにより新成テック株式会社を落札候補者とし、事後審査を行った結果、適格でありましたので、当該事業者を落札者と決定し、税抜き 3,877 万円で契約締結をいたしましたところ です。

発注公告と入札経過の説明は、以上です。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

**【委員長】**

ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご質問がございましたら、よろしくお願いいたします。

**【委員】**

同じような質問で申し訳ないのですが、やはりこれもみんな最低制限価格ドンピシャで入れていますね。しかも、次の事案の先取りになってしまいますが、金額もある程度大きいということになれば、企業としてもそれだけ利益も上がりますよね。工期も、先ほどの 151 万円とも比べてということで、人気があるというか、そういう形の理解でよろしいのかというのが 1 点と、2 点目として、桑名市に限った話ではないんでしょうが、こういう同額での入札ばかりとなると、結局ただのくじ引きの運・不運だけの業者選定ということになってしまっていて、事後審査を行うので最低当たり前の基準はクリアするのは当然でしょうけど、それ以外に何か、特にこういう高額な事案に関して言うと、ある程度能力で選別もできたらなという私の希望というか意見ですが、そのあたりいかがかと、2 点お願いします。

**【担当課】**

前段の同額入札が多いというところにつきましては、ちょっと参考までに昨年度の情報公



開請求による工事関係の設計書の情報公開を求められた件数を調べてきました。昨年度で160件の情報公開請求がございまして、それだけ業者さん、もしくは積算ソフト会社さんがしっかり設計書を勉強されていると思われます。設計書の内容をしっかり確認されているということで、どうしても同じような、正しい積算を行うことによって、同額になってくるのかなと感じております。

後段の件につきましては、確かに言われるように、今、入札方法としましては、もう少し差別化を図っていただくというか、施工に対して努力している業者さんに対して、何らかの反映をしていただくと、発注課としてはありがたいと感じております。

#### 【事務局】

これまでの案件と同じような答えになってしまいましたが、やはり5者が最低制限価格に並んでくるというところについて、変動型最低制限価格制度というのをとっており、それで応札状況によっては、これが変動し得るという状況にはあります。業者さんが落札をしようとすると、ほかを出し抜くというのではないんですが、一番取り得るであろう価格というところを目指して応札にいきますので、どうしても横一線に並んでしまうという傾向はあるのかなと思います。

この最低制限価格の基準価格の算出というのが公表されておまして、当然、その設計金額も予定価格として公表されておるという中で、一定の積算能力があれば、精緻な数字をつかみ得るという状況にはあると思っています。

応札の結果、入札の価格が横一線に並んでしまいますと、結果的に価格の変動がなくて、最低制限価格の基準価格、算出式で出てきた金額というのが、そのまま最低制限価格になってしまう。そこに結果的に並んでしまうという状況が生まれているものだと思っています。

あと、くじ引きの多発の関係ですが、入札の結果、結果的にくじ引きになって、それで業者が選ばれるというところについては、他市の契約の状況を担当者として注視しておるつもりです。

我が市ですと、以前に不祥事があったという関係で、今の入札の仕組みができておるというところもありまして、現行では周囲の状況、様子を注視する、そういう形が一番妥当なのか、適したものかというのは、考えてはおるつもりでいます。

当然、上下水道部だけで決定するということもできませんので、もし、今の入札の仕方について、もし見直すべき点があれば、契約監理課とも相談をしながら、よりよい方法を考えていかないといけないと担当者としては思っております。

#### 【委員長】

それでは、この案件につきましては、問題なしということにいたします。

今、説明もしていただいたように進めるということですが、常によりよい方法で改善というのは考えていただきたいと思います。

### 抽出案件 4 西桑名幹線雨水管路施設工事（駅西地区）

#### 【委員長】

それでは、第4案件に入ります。「西桑名幹線雨水管路施設工事（駅西地区）」について、発注課のほうから工事概要の説明していただいて、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についての説明をお願いします。

#### 【担当課】

引き続き、よろしくお願いします。お手元の資料の16ページをご覧ください。工事名は、「西桑名幹線雨水管路施設工事（駅西地区）」でございます。工事場所は、桑名市大字東方地内、設計金額は101,865,600円でございます。工事期間は、平成30年12月17日から平成31年3月29日までとなっております。

ですが、財務局の繰越承認後、契約日より平成 31 年 8 月 30 日まで変更という予定でございます。その旨は、特記仕様書に記載させていただいております。

本工事は、桑名駅西南の雨水の浸水対策が目的で、桑名駅西土地地区画整理事業と進捗を合わせながら、雨水ボックスカルバートの布設工事を行うものでございます。工事内容といたしましては、耐震性を有する耐震ゴムリング継手のボックスカルバート 1,800×1,800 の延長 128 メートルを仮設鋼矢板 3 型を用いまして開削工法により布設する工事でございます。

以上でございます。審議のほど、よろしくお願いいたします。

#### 【事務局】

続きまして、上下水道部の事務局から発注公告と入札経過について御説明いたします。資料は 18 ページです。発注公告を御覧ください。本件の入札方法は、事後審査型条件付き一般競争入札で、低入札価格調査制度対象案件でありました。

入札参加資格要件については、土木工事業の特定建設業の許可業者であること。所在地要件は、市内業者としまして、経審点数は 730 点以上、発注業種の完工高が予定価格の 2 分の 1 以上であること。同種工事施工実績として平成 15 年度以降、官公庁発注案件で土木一式工事の施工実績を有することを求めておりました。技術者要件としては、現場代理人と監理技術者の専任配置を求めたほか、低入札価格で契約を締結する場合には、これらのほかに監理技術者に求める資格を有する専任の技術担当者を 1 名追加することとしています。以上の要件をもって公告をいたしました。

続いて、入札経過と結果について御説明いたします。資料は 20 ページです。平成 30 年 11 月 27 日に入札を行いましたところ、6 者から応札がありまして、日本興業株式会社が調査基準価格を下回る 8,300 万円で応札しまして、本案件の最低入札価格であったことから、低入札価格調査を実施いたしました。

調査の結果、当該事業者は、各調査項目において、特に問題がなく適格でありまして、契約内容に適合した工事施工が可能であると判断されましたことから、当該事業者を落札候補者と決定しまして、入札参加資格の事後審査でも的確でありましたので、当該事業者を落札と決定し、税抜き 8,300 万円で契約締結をいたしましたところです。

発注方法と入札経過の説明は、以上です。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

#### 【委員長】

ありがとうございました。それでは、お願いします。

#### 【委員】

いくつかございまして、以前、説明を受けたかもしれませんが、低入札価格調査の対象案件というのは、どういうのが対象にされるのは、今日これまで見てきた案件との違いですね、そうでなければ一斉に 6 者が並ぶところ、要はどういう基準でされているのかなということを知りたいということがあって、おさらいになるかもしれませんが、教えていただければと思います。

2 点目としては、その御説明との関連もあると思うんですが、調査基準価格というのは、いわゆる最低基準価格に当たるものと理解していいのかという点です。

そうすると、3 点目ですが、私の勝手な思いかもしれませんが、これまで 3 つ目の案件等と比べると、逆に 3 つ目のときは、僕が申し上げたとおりにくじ引きになってしまうということになるんですが、一方で、談合というのは、逆にしにくいのかなと。みんなくじ引きになってしまうところなので。

一方、今回のようなパターンですと、私の印象ですが、1 者だけこういう形で今回入れれば、約 160 万円ぐらい少なくした結果、160 万円ぐらいの下回りですと、実施が可能という判断になるということで、逆に今回、この件が談合していると別に疑っているとか、そういう意味ではなくて、そういうことができてしまうんじゃないかなということで、その点 3 つ

目、いかがかなという点です。教えていただければと思います。

【事務局】

3つ、質問がありますと、途中、聞き忘れてしまうかも知れませんが、もし言い忘れがあれば、御指摘をいただきたいです。

まず、1点目、この低入札価格調査制度の対象案件というのは、設計金額が1億円以上の工事の案件と総合評価落札方式を採用した案件であります。また、それに満たない場合でも、必要と認める場合は、この制度を適用することがあります。

低入札価格調査を行う場合の基準となる調査基準価格、これは算出式が公表されておりまして、その式自体は、通常の契約の最低制限価格と同じ算出式となっております。

この案件、低入札価格調査制度で異なりますのが、通常の入札でありましたら、最低制限価格を下回ると失格なんですけど、低入札価格調査制度の場合は、それを下回った入札であっても失格にならずに調査をして、その価格で適正な工事ができるのかというのを調査した上で、できると判断した場合には、その価格で契約にいたるというものになっています。当然、低入札価格の調査基準価格は、最低制限価格に似たような額なんですけども、これをもし下回ると、先ほど申し上げた調査をすることになりまして、その調査の関係でさまざまな書類を出していただいたり、ヒアリングを受けていただきます。当然、費用が下がるわけですから、経費の節減などの努力は必要なので、なかなかそこまではという業者さんは、そこに踏み込んでこないのかなと思われます。横一線になりがちところで、どうしても取るという、自分とこはこれできるというところは、あえてそこをチャレンジしてくるという感じなのかなと考えております。

【委員】

今わかれば結構ですけど、今まで過去、市において低入札価格調査制度の対象案件をとられて、今回のように下回る業者があつて、今回は調査の結果、落札決定出されていますが、調査の結果、失格にした件というのはあるのでしょうか。

【担当課】

過去には審査の内容で内訳書等をチェックする項目もありますので、それに該当しなかった場合、不的確という事例も過去にはございます。

【委員】

すると、やっぱり先ほど説明いただいたように、どうしても取りたいときに頑張るのはありでしょうが、当然リスクは伴うということなんです。つまり業者の儲けというか、商売の観点からいくと、おそらく横並びになるだろうということは予想する中、くじで、例えば今回で言うと6分の1の期待値で頑張ってみるのか。それとも、ちょっと頑張ってギリギリをとってみて、失格になるリスクをとるのか、そこはまさに業者次第という理解でよろしいんでしょうか。

【担当課】

そういうことだと思います。

【委員】

今回の資料に入れていただいております注意事項の中の調査基準価格算定式というものの中の直接工事費、以前にいただいたものの中には、直接工事費からスクラップ控除額を引いて0.95を掛けるという数式の表をいただいているので、今回の工事では、スクラップ控除をする必要が、いわゆるスクラップが出ないということでしょうか。今の工事現場の東方の部分に雨水管路、開削工法でも、ごみとかそういうものは出ないということですか。

【担当課】

そちらのほうは出ないということで設定しております。

【委員】

全部横並びになっている話のことばかりで、誠に申し訳ないのですが、例えば、計算式を皆さんがわかっているから、それに沿ってやると同じ答えになるという話ですが、確かに率はそうかもしれませんが、これにもともと掛けていく直接工事費であるとか、仮設費であるとかいうところ、このあたりはやっぱりその業者さんが、本来自分たちで考えて、ここはどうかというところで、後は多分、最低制限価格はここになりそうだから、合わせてトータルの金額を決めて最初から入れていると思うんですが、各業者さんの計算の内訳というものは、調査の対象になっているのでしょうか、なっていないのでしょうか。業者さんが努力して、入札を取るためにトータルの金額で応札しますが、いったん内訳の計算はしたけれども、調整して総額を合わせているとか、内訳はまったく関係なく、トータルの金額だけ見ているだけなんではないでしょうか。

**【担当課】**

内訳書等を契約担当課のほうから工事担当課のほうに回ってまいります。そちらのほうで工種等の金額を当初設計と比較いたしまして、大幅にかけ離れているところがあれば、業者に聴き取りもいたしまして、適正に工事ができるかというのを確認しながら審査をしているところでございます。

**【委員】**

ちなみに、この件の場合、内訳の内容というのは、当初設計とそれぞれ違っているんじゃないか、それとも一緒なんですか。

**【担当課】**

担当者のほうでチェックしましたところ、ほぼほぼ似た金額になっておりました。今回、低入札調査ですので、聴き取りもさせていただいて、購入先とかそういうのも、どういう理由でこういう金額になったかということも聴き取りをしながら審査させていただいております。

**【委員】**

技術者要件ですが、この低入札価格で契約すると、監理技術者に求める資格を有する者を1名追加配置するということですね。今回の場合は、低入札価格で1名追加するということになるんですか。

**【担当課】**

そのとおりでございまして、1名追加ということになります。

**【委員】**

これはどういう意味でしょうか。

**【担当課】**

低入札価格によって、現場が煩雑とか品質が確保できないことを避けるために、2名つけて、品質管理をきちっとしていただくという意味をもって2名つけることとしております。

**【委員】**

そうすると、低入札調査対象となると、技術者が増える分、人件費が余分にかかるという感じではあるんですか。

**【担当課】**

そうですし、2名の技術者にもそれなりの資格が必要ですので、今回の入札に参加する業者さんが1名だけ低いというのは、技術者不足の中人員の確保等もあって、2名を一つの現場につけるのが厳しいので、調査対象にならない価格で入札に参加されている業者もおるかと思っております。

**【委員】**

先ほどからも何かいろいろ御意見あったんですが、予定価格が公表されていて、調査基準価格の算出式も公表しているから、大体同じような課題が出てくるということでしたね。

【担当課】

そうですね、予定価格と調査基準価格の算出式をもとに積算して、調査基準価格で入札に参加されている方が多いと思います。

【委員長】

ほかはいかがでしょうか。それでは、この案件につきましては、問題なしとします。

低入札価格制度はなかなかいい制度だと思います。その代わり手間がかかるので、仕事のほうが大変になるかと思いますね。

逆に応札業者の数が少ないと、もしかすると談合ができてしまう可能性があるのですが、基準を見直していただいて、もう少し業者の数が多くなりそうなものについても、方向としては、制度をもう少し活用していただければと思います。

抽出案件 5 配水管設計業務委託（大山田一丁目地内ほか）

【委員長】

それでは、最後の案件になります。第5案件です。「配水管設計業務委託（大山田一丁目地内ほか）」について、発注課から委託概要を説明していただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札の経過についての説明をお願いします。

【担当課】

お手元の資料の21ページをご覧ください。委託業務名は、「配水管設計業務委託（大山田一丁目地内ほか）」、履行場所は、同じく桑名市大山田一丁目地内ほか。設計金額は、11,574,360円。履行期間は、平成30年10月15日から平成31年3月15日までとなっております。

本業務は、基幹管路耐震化事業及び第一次配水管網更新計画に基づき、基幹管路の耐震化と漏水多発路線や病院、避難所等の重要給水施設へ向けた水路管路の更新、耐震化を図る工事発注のため、配水管布設替詳細設計業務を、市内5カ所分委託するものでございます。

5カ所につきましては、22ページからの地図にありますように、大山田一丁目、長島町平方、堤原、内堀、多度町柚井となっております。

業務の詳細につきましては、現地調査を行い、平面図、横断面図、配管詳細図等の図面を作成して、工事発注に必要となります設計書の材料、労務などの数量を算出するものでございます。

以上、よろしくお願いいたします。

【事務局】

資料は28ページ発注公告をご覧ください。入札は事後審査型条件付き一般競争入札で執行しました。参加資格要件の登録内容、所在地要件については、上水道及び工業用水道の建設コンサルタント登録業者で、県内事業者としております。技術者要件では、管理技術者には技術士、照査技術者には技術士、技術管理者又はRCCMのいずれかの資格を有する者の配置を求めています。同種業務履行実績は、平成15年度以降、官公庁発注案件で上水道配水管設計業務の実績を有することとしています。以上の要件をもって公告をいたしました。

続いて、入札経過及び結果について御説明をいたします。資料は29ページをご覧ください。平成30年10月2日に入札を行いましたところ、14者から応札がありまして、開札の結果、14者とも最低制限価格と同額での応札となりましたので、電子くじにより株式会社エフウォーターマネジメント三重事務所を落札候補者とし、事後審査を行った結果、適格でありましたので、当該事業者を落札者と決定し、税抜き865万円で契約締結をいたしましたところ。発注公告と入札経過の説明は以上です。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。それでは、今の説明についてのご質問はいかがでしょうか。

【委員】

これ、先ほど従前の案件で出たキーワードですが、逆の設計業務という点と、高額という点で人気の入札で、その結果、これだけ大勢が応札して、当然ドンピシャでこういう形という理解でよろしいでしょうか。

【担当課】

設計コンサルの発注業務につきましては、今年度、発注した中では、一番応札業者数が少ない案件になります。どうしても発注時期が今回遅かったために、ほかの案件を抱えている業者さんは、なかなか応札がしにくいことが推測されたため、若干少なくなったと思われます。この案件は金額的に県内業者までを対象として発注しておりまして、応札参加ができる業者数としましては、80 者ほどございまして、その中の水道管の設計を主に行うコンサルタント業者ということで、多い場合ですと 30 者程度、応札をいただく場合もございます。人気はあるんですが、発注時期がちょっと遅かったために、応札者数が若干少なかったかなと推測をしております。

【委員】

今回、5 カ所、バラバラの地区を一括して発注をされていますが、これを例えば多度と長島を一緒にするとか、大山田は別にして堤原と内堀を一緒にするなど、2 つか 3 つに分割して発注するということはお考えにはなかったのですか。

【担当課】

今回、発注させていただいた案件は、来年度の工事を予定している箇所の設計でございまして、発注時期が遅くなったのも、どうしても来年度、施工する箇所を予算時期に決めてから発注する必要があるもので、遅い時期に発注をさせていただくことと、延長数がどうしても長くなりますので、施工期間が必要になることと、まとめることによって経費が安くなるということも加味しまして、今回、5 カ所分まとめて発注をさせていただいたところでございます。

【委員】

私が思いますのは、例えば発注時期が遅かったのも、いっぺんに 5 つもらえば時間がかかるわけですね、一つの業者が受ければ。それを細かく分けてやれば、A さん、B さん、C さん、D さん別々に設計するわけですから、期間が短くて済むんじゃないかと。それをもっとより多くの業者さんが参加できる業者の数があるんですから、もっと広く参加してもらえんじゃないかなという気がしたので、そういうちょっと意地悪な質問をしたわけですが。

結果として、こんな形で、80% ぐらいくじ引きで決めるんですから、公平にはいつているので、その点ではいいと思うんですが、なんか発注する側がもう少し工夫をして、より多くの方に参加して、市内の業者さんがたくさん参加できるように配慮をしてやるというか、そういうことを、こうすれば、もっと公平・公正な競争ができるんじゃないかという気がしましたので質問させていただきました。了解しました。

【委員】

素人の質問ですが、こういう設計業務を積算できるんですか。

【担当課】

水道課の設計業務につきましては、厚生労働省が指定する設計歩掛りというものがございまして、それに基づきまして設計をさせていただいておりますので、水道の設計を主に行うコンサルタント業者さんであれば、当然、その歩掛りの所在もご存じですので、それに基づいて同じように設計、積算されれば、当然、容易に最低制限基準価格がわかるのかなというふうには感じております。

【委員長】

ほかはいかがでしょうか。

【委員】

ついでお聞きしますが、変動型最低制限価格を採用しているんですが、最低制限価格にみんなが一緒になったら、これは機能しないということですね。これの上のところで最低制限価格が変動した場合は、一番下を削るとかありましたよね。この場合、一番下を削る必要はないかもしれないけど。これの意味がよくわからない。変動型最低制限価格という場合は、どういうときに活用されるのかな。

【事務局】

横並びで同一の額で応札になってしまいますと、変動した結果の平均を取りにいけますので、同一額であれば一緒の額が出てしまいまして、結果的に最低制限価格基準価格が最低制限価格という形になってしまいます。

この応札の額が違いますと、その計算の結果、結果的に最低制限価格の基準価格よりも上側に振れまして、場合によっては失格になる者が出てきたりということがありますが、今回のように横一線で応札額が並んでしまいますと、結果的にもとの額と一緒に額が最低制限価格になってしまいます。

【委員】

変動型の話で思い出しますが、当初、いわゆる変動型で計算する方式を始めたころというのは、抽出案件の中に結構、金額のばらつきがあって、変動型で失格になるところが出たりとかいうのが見受けられたように思うんですが、ここ最近はいつからというわけではないんですが、本当にきれいに一斉に並ぶというケースがよくありまして、これはものすごい穿った見方なんですけど、どこかがこの金額だぞといって、それを流しているということはないのでしょうか。全く同じ金額がずらっと並ぶという、もうこの金額になるから、みんなで並べば、あとはくじの件だけだねみたいな話になっていやしないかなという、根拠のない推測をしてしまうんですが。これは間違いでしょうか。

【事務局】

業者さん同士の仲がいいかどうかというのはわからないので、あくまで推測ですが、一定の積算能力があれば、最低制限価格というのは出せますし、回数を重ねる毎に、その能力が長けてきたということもあるのかなと思ってます。

業者の中でそんなやり取りがあるのかどうか、わからないところですが、それをすると、自分とこだけわかっていけば落札できるのに、それを仲間に言うと、くじ引きになってしまっただけで落札できる可能性が減るわけですから、そういうことをする業者はいないのではないかと思います。

【委員】

もしも仲がよかったら、あなたが取ったら下請けに入らせてねみたいことはないんでしょうか。

【事務局】

どうなんでしょうか。非常にお答えに困る、答えのしようがありません。

【委員】

すみません。多分、取ったところの下請けにはほかの応札者が入るというのは、違反行為か何かでしたか。素人の質問で申し訳ありません。わからなかったらいいんですが。

何が言いたいかというと、せっかく変動制みたいな、要は談合のしにくいような仕組みを一生懸命考えてつくられたのが、近年そういう業者さんの積算能力が高まったことによって機能しなくなってきているのであれば、やはり何かほかの方法を考えていく必要があるのではないのかなと思ったものですから、そういう趣旨でございますので、よろしくお願いします。

**【事務局】**

この前の案件でも申し上げたように、当然、入札のやり方は時代に応じて変わってくるところがあるとは考えておりますので、かつてよかったこと、あるいは今までよかったことが、この先も常にいいかというふうには思っておりません。他市町の入札のやり方を、当然注視しながら、自分たちの方法が妥当かどうかというのは、常に考えていきたいと思っています。

**【事務局】**

同じ金額に並んでしまう原因の一つで、最低制限価格の端数処理が、千円止めから万円止めに変わったという点があります。これは建設業協会さんのほうから要望があって、そのように変更しております。

**【委員長】**

ほかにいかがですか。

さっきの下請けの件ですが、これが禁止されているかどうかというのは、調べていただきたいと思いますが、実態としてはそういうことはあるんですか。やり方、工事のやり方として。同業の人に下請けに入ってもらおうということ自体はあるんですか。そもそもそういった話は聞いたことがないという話になるのでしょうか。

**【担当課】**

部分的にはかなり人手が不足しているとかという場合は、下請けに入られるということとはございます。

**【委員】**

そのときに下請けの監理技術者とかが入ってしまうと、わけがわからなくなってしまうので、それはないですね。

**【担当課】**

監理技術者は元請けの業者さんから出していただきますので、それはないかと思われます。

**【委員長】**

それでは、この案件につきましては、問題なしということにしたいと思います。

では、きょう全体、きょうだけじゃなくて、これはずっと永遠のテーマなんですけど、ずっと話題になっていたのを、いろんな状況が変化しているので、常にそれに応じて改良をしていくという努力をしていく必要があると思います。

それでは、以上をもちまして、抽出事案の審議を終了いたします。担当発注課さんはここで退席してください。どうもありがとうございました。

〔関係職員の退室〕

**【委員長】**

次回の審議案件の抽出は、佐藤委員となりますので、お願いします。

次に、(3) その他ですが、何かございますか。事務局、何かございますか。

**【事務局】**

特にございません。

### 3 閉 会

それでは、これで平成30年度第3回の桑名市入札監視委員会は終了させていただきます。なお、本日の審議概要は、後日、事務局でまとめていただきたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。